

グローバル・ショーケースの様子

ともしび
共生委員会ニュース

2018 年度　2 号

2018 年 7 月 20 日版

２０１８　グローバルウィークⅠ　概要

〇期間：２０１８年6月１８日（月）～6月２５日（月）

〇テーマ:「Our neighbors」

〇内容：下記のスケジュールで行いました。

	6月							
	18	19	20	21	22	23	24	25
	月	火	水	木	金	土	日	月
礼拝	放課後本舗六軒町 岩下よし子さん	短大副学長 河見先生	高等部卒業生 T君	キャロル先生	HR308 O.R.			
昼休み	「デザイン思考」 ワークショップ①	Global Showcase	Global Showcase After Session ボラ部、ASC、ブルペコ	Special Chat Room	フィリピン イベント			
場所	西校舎2F 大会議室	2 Fエントランスホール	2 Fエントランスホール他	西校舎4F 大教室	西校舎2F 大会議室			
放課後	「デザイン思考」 ワークショップ②				CFJの方のお話			FOR会
場所	西校舎2F 大会議室				西校舎2F 大会議室			西校舎2F 中会議室B

The Benefits of Volunteering

by Mr. Berry



Have you ever volunteered? Today, I'm going to write about three times I did a little volunteering. I volunteered on an organic farm for two weeks in Hokkaido and then another time at an organic farm in Nagasaki. It takes a lot of effort and time to run organic farms successfully, so many organic farms welcome volunteers. I helped by picking vegetables, weeding, cleaning, chopping wood, etc. Maybe it sounds hard, but actually it was a lot of fun. I could learn about the **reality** of farming, I could visit the rural side of Japan, and I could meet lots of people that I wouldn't normally meet.



For a short time, I also used to volunteer on Friday afternoons at an organization called Second Harvest Japan. I cut vegetables to make soup for a **soup kitchen**, and I prepared boxes of food to send to people who needed help. Again, I could meet lots of different people, and I could better understand a serious issue in Japan. Finally, after the big earthquake in 2011, like many people I wanted to help out, so I went to Ishigaki in Miyagi prefecture. I was only there for around ten days, but we were very busy clearing mud, clearing **debris**, and so on. It was hard, but I'm so glad I did it.

However, in April 2011, I started working here in Aoyama Gakuin, and since then I haven't really done any kind of volunteer activities. I felt too busy, and now I have a little baby, I feel incredibly busy! So, my advice to you is don't wait! High school is a great time to start getting involved with different issues, and it can have many benefits! For example...

- you can meet lots of different people!
- you can make a difference and help to improve someone's life!
- you can really learn about and experience important issues!
- you can get lots of new skills!
- people with different experiences are more interesting!
- it looks great on college **applications** and job applications!

We recently had Global Week I, and in the second term we will have Global Week II. I really hope you can find something to be **passionate** about. Good luck!

Useful Vocabulary

reality – 現実

soup kitchen – 炊き出し

debris – がれき

application – 申し込み、出願

passionate – 熱意ある

グローバルウィーク　宮古訪問プログラム　関連企画

「2018.6.25　FOR 会について」

MF3.11 東北応援愛好会

代表　小倉 久輝

去る 6 月 25 日(月)、大会議室にて FOR 会が行われた。FOR 会とは Future　Opinion Reconsider 会の略で“未来のための意見をもう一度考える会”という意味を持っている。風化が進んでしまった被災地を忘れない、被災地を発展させたい、防災意識を植え付ける、などといった思いを持って行われている。毎年 2 回高等部にて開催しており、青山学院大学 MF3.11 東北応援愛好会という、ボランティアサークルが主催している。当団体の会員の大部分は高等部の宮古訪問プログラムに参加した卒業生であるので、興味のある高等部生は大学への入学の際には入会を検討いただきたい。

今回は「復興から発展へ-7 年たった今だからこそ-」という題にて共有と話し合いが行われた。会は 2 部構成であり、1 部は被災地である岩手県宮古市出身で大学二年生の加藤さんが、被災地の現状の様子や問題点、地震・震災が起こったらどのように行動すればよいか、を自身が経験した東日本大震災の教訓を生かして教えてくれた。中でも被災地の現状や問題点のセクションにおいては、現在も岩手県宮古市に住んでいるお父様の今困っていることや実際に地域社会が抱える課題を上げてくれ、被災地が抱えているリアルな問題点が理解できた。

2 部では 1 部を踏まえて、参加者自身が思っていた被災地の現状、問題点に対する打開策や地方創生案、感想を各々が共有した。参加者の思う被災地の現状のセクションでは、更地ばかり、まだ仮設住宅が並んでいるなど未だネガティブなイメージが多い印象だった。現状では更地は多々あるものの復興住宅や震災遺構などが出来上がっており、さらなる発展を目指しているところである。このように現地と東京では認識のギャップがあるのは明白で、広報活動の至らなさを痛感させられた。問題点に対する打開策のセクションでは、運動場の整備で大会の誘致や風評被害の払拭の為の PR 活動により一層力をいれる、インバウンド向けの施設、インフラ×IT による交通の利便化、などの打開策が上がった。人がどうしたら戻ってくるのかに焦点を当てて参加者同士で検討し合うことができた。

今回の FOR 会では、この夏宮古に行く生徒や地方創生に興味のある生徒、先生方と様々な角度から被災地について検討できたと思う。積極的に発言してくださった参加者の方々には感謝したい。今後も高等部では宮古市との交流を続けていくはずである。もし貴方に機会があればぜひ現地にて被災当時の現状を確認して欲しい。

2018.6.17　第３回「山の手空襲を語り継ぐ集い」リポート

今年度も昭和２０年５月の山の手（表参道周辺）空襲を知る集いが開かれました。高等部から参加した、総合司会のY.S.さん（HR301）や朗読部司会のM.S.さん（HR301）、昨年に引き続き心のこもった朗読を聞かせてくれた放送部員３名が、会を盛り立ててくれました。

記憶を継ぐということ

HR305　E.R.

私は今月 17 日に、山の手空襲を語り継ぐ集いに参加してきました。この集いは、大半がご年配の方々で構成されていて、そこに私達のような青山学院の学生が加わって、山の手空襲についての本を朗読したり、経験談を語り合ったりする、というものです。そもそも山の手空襲とは、原宿や表参道に甚大な被害をもたらした空襲で、かつての青山学院もこれによって一部が焼失したそうです。

朗読する箇所の台本を最初に読んだ時、生々しい表現が多かったので、かなり狼狽しました。悲惨で残酷な空襲の事を文字だけで表現しようとしているのですから、いくら鮮烈に書いても足りない事くらいわかっていますが、やはりここまで鮮明に描写されると動揺せざるを得ませんでした。声に出さず、自分で黙読する分にはただ内容を理解しようとするだけで済むのですが、これを読んで、聞き手に伝えようとするとなると、あたかも自分の経験した事のように声に出して読まなければいけないので、実際に体験したわけでもない私にそんなことが出来るのか、だいたい戦争未経験者が偉そうに戦争を語っていいのか、不安と後ろめたさがありました。だからといって朗読できない、という訳にもいかないので、それなりに練習して私の中で一つ、答えのような読みを、なんとか見つけました。

当日、会に参加した時、そこに居たご高齢の方から、何度も何度も、青山の若い学生達が来てくれて、こうやって語り継いでくれる事が有難い、戦争について知ってくれてありがとう、という趣旨の事を、なにか吹っ切れたような一種の晴れ晴れとした諦観と希望とが入り混じった眼差しで言われたことがとても記憶に残っています。そのような事を言われて、しばらく考えて、根本的な問に対する答えに気づけたように思えました。戦争を経験した事もない私が経験談を朗読する意味、私たちがお年寄りの方々が体験したその悲惨な出来事を、知ろうとして、語り継いでいこう、というただそうするだけで充分だったのです。その気持ちこそがなにより彼ら、彼女らにとって一番嬉しいものだったのだと気づいた時、私はそれ以上に何も出来ない自分の無力さを省みながらも、しかしずっと心の中で渦を巻いていた困惑がスッキリ解けたような気がしました。このように、ただ交流をするだけでいいのです。会って、目を見て、会話をするだけでよかったということに気づかせてくれました。



